

鳥取大学精神科での後期研修プログラム

1. 附属病院における担当診療科

鳥取大学医学部精神行動医学分野では、附属病院にて後期研修を行う診療科は、

(1) 精神科

である。

鳥取大学医学部精神行動医学分野は、従来は標榜科を神経科精神科としていたが、平成14年度より心療内科を併設し精神科・心療内科と改めている。

内科疾患をベースとした狭義の心身症に対して当科のみでは十分な対応が困難であるが、総合病院の特質を活かして身体科と共同での診療を行うリエゾンサービスという形での対応を行っている。その他の心身症に対しては当科単独での診療の対象としている。後期研修では主として精神科の研修を行い、幅広い精神疾患についての診断、治療が行えることを目的とする。

2. 受け入れの身分

当科での後期研修として受け入れる際の身分であるが、

(1) 医員

(2) 大学院生

を考えている。

まず、医員の処遇は、

(1)勤務時間：鳥取大学非常勤職員就業規則による（時間外アルバイト可）。

(2)待遇 ①報酬：鳥取大学非常勤職員給与規定による。

②その他 通勤手当の支給。

③政府管掌健康保険、厚生年金保険、雇用保険加入が可能である。

以上より、臨床や研究に安心して従事するのに十分な給与は確保されている。

また大学院生に関しては、研究に支障のない形でアルバイト先を確保している。大学院の中には、以下に示すが、社会人特別選抜枠があり、勤務しながらの在学が可能であり、より経済的・時間的な制約が少ない制度を設けている。

大学院については、鳥取大学大学院医学系研究科医学専攻博士課程（精神行動医学分野）（4年制*）を受験する必要がある。試験は2月と8月の年2回行われる。詳細は鳥取大学医学部ホームページ参照のこと。

①一般選抜

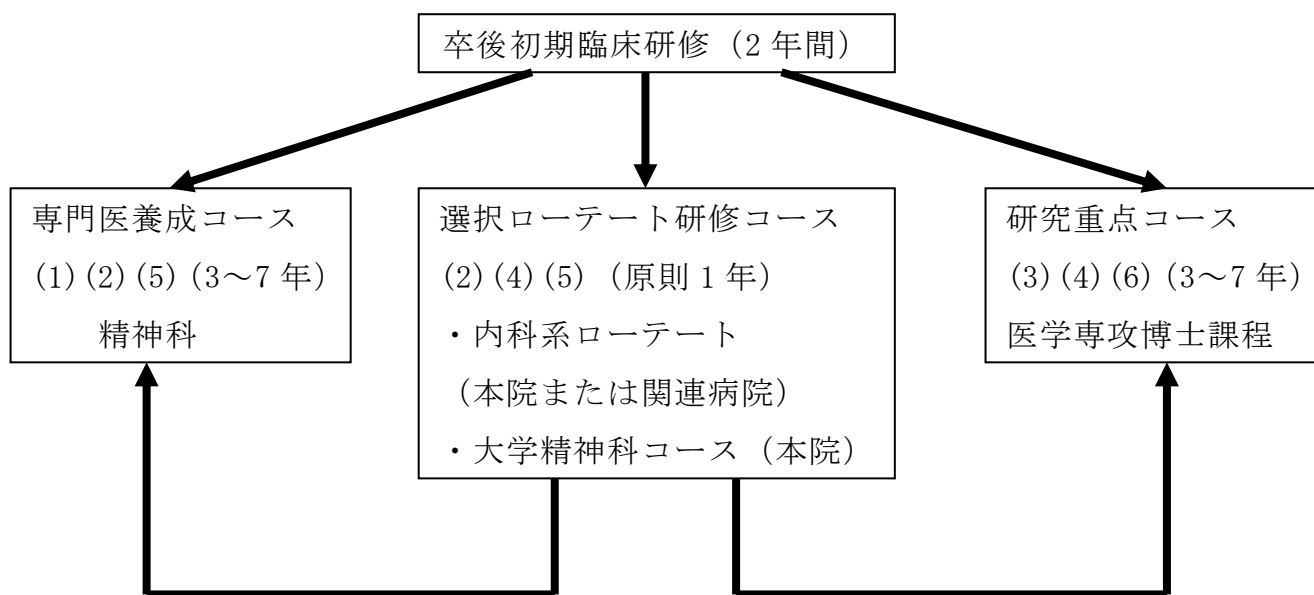
②社会人特別選抜（本院医員または一般病院に勤務しながら入学可能）

*研究の内容によっては、3年または3年半で修了可能

の2コースが設けられている。②の社会人特別選抜は、高度な専門的知識・能力を有する人材の確保のため、鳥取大学大学院医学系研究科医学専攻博士課程に夜間開講制を導入し、地域医療や医学関連分野で活躍する社会人に、高度な医学研究能力・知識を身につける機会を与えることを目的としているものである。

3. 初期臨床研修終了後の選択可能なコース

初期研修を終了して、後期研修（精神行動医学分野）に入る場合に大きく分けて3つのコースを設定している。以下コース内容を詳細に説明する。なお、説明文の括弧内の番号は、図中の番号に対応する。



- (1) 初期研修終了後、直ちに専門医養成コースの精神科の専門医研修を開始できる。
- (2) 選択ローテート研修コースの内科系ローテート（1年）もしくは大学精神科（1年）を経て、専門医養成コースの2年目に移行できる。
- (3) 初期研修修了後、直ちに研究重点コースに進むことができる。

- (4) 選択ローテート研修コースの内科系ローテート（1年）もしくは大学精神科（1年）を経て、研究重点コースの2年目に進むことができる。
- (5) 専門医養成コースおよび選択ローテート研修コースを選択したとしても、初期研修終了後直ちに社会人大学院として大学院医学専攻博士課程に入学できる。
- (6) 研究重点コースを選択したとしても、医学博士課程終了後に1～2年間教育関連病院で研修を受けることができる。
- (7) 専門医養成コース（選択ローテート研修コースを経る、経ないにかかわらず）を修了することにより、日本精神神経学会精神科専門医受験資格および精神保健指定医の資格を得ることができる。

次に各コースについて説明する。

A. 専門医養成コース：

まずは地域の中核病院（公立・私立病院：関連施設は後述）での精神科研修の後に、地域に密着した病院での研修を行い、病院医療だけではなく地域支援システムについても学び、精神科専門医・精神保健指定医を最短で取得することができるコースである。研修先は、後述する中国地方の間連施設に限定されず、関東や関西をはじめ各地の総合病院・単科精神科にての研修の希望がある場合は、本人と相談の上選択が可能である。このプログラムにおける中国地方以外の協力病院としては、平成25年4月の時点では、東京大学医学部附属病院、東京都立松沢病院、東京都立墨東病院、国立精神・神経センター武蔵病院ならびに昭和大学医学部附属病院がある。

B. 選択ローテート研修コース：

初年度を主に大学内での研修に当て、初期研修で獲得した幅広い臨床経験を、診療科を絞り、もう少し長い期間で深めていくコースである。

これには、大学内の内科で研修するコースと大学精神科で研修する2コースが選択できる。内科研修に関しては希望により学外の研修施設の選択も可能である。学内で内科系ローテートを行う場合は、脳幹性疾患研究施設（脳神経内科・脳神経外科・脳神経小児科・脳神経病理）で研修する神経疾患専門研修コースを選択することができる。このコースにて、精神医学との関連が深い各科での研修を行うことにより脳神経に関する広範な知

識と技術の習得が可能である。

大学精神科で研修を始める場合は、最初の半年間は面接技法・心理テスト・脳波・画像・薬物療法・精神療法・疾患各論について指導を受けることになる。講義形式のものばかりではなく、臨床心理士による心理検査の実施指導や、テープ面接などの現場における実習を介して基本技術の習得を図る。診療はグループ制による病棟指導体制をとり、リーダー・サブリーダー・レジデントにより3重のチェックが行われる。

このコースを選択しても2年目から専門医養成コースへ移ることも可能である。

C. 研究重点コース：

研究は、基礎研究（動物実験）グループ、臨床遺伝解析グループ、認知機能・生理検査研究グループ、神経内分泌研究グループ、社会精神医学グループ、精神療法研究グループの各グループに希望に応じて配属され、研究指導を受ける。各研究グループの枠組みは緩やかで、共同で研究を進めるプロジェクトも多い。また研究は当科の研究施設のみならず、当院の研究協力者や国内外の研究協力者との密接な連携をとりながら進めていく。

平成25年4月時点で稼働しているプロジェクトとしては、以下のものが挙げられる。

- ① ラット及びマウス脳から作成した *in vitro* のスライス標本において電気生理学的な手法であるスライスパッチクランプ法を用いた研究
- ② うつ病ラットモデルを用いて薬理学・行動薬理学的研究
- ③ 統合失調症、躁うつ病の疾患関連遺伝子に関する研究
- ④ 眼球運動、神経心理検査、事象関連電位などを用いた統合失調症の認知機能研究
- ⑤ うつ病と内分泌代謝機能の研究
- ⑥ 自殺関連うつ病研究
- ⑦ 地域医療において当事者主体の医療サービス作りを目指した研究
- ⑧ 新しい精神科リハビリテーションプログラムとしての認知矯正療法の開発と評価に関する研究

⑨ 精神療法の効果に対する心理検査、生物学的検査などを用いた評価研究

特に当科で力を入れているプロジェクトは、統合失調症の地域での生活を支えるための総合的治療プログラムの開発である。具体的には、当事者主体の医療サービス作り、社会生活レベル向上のための認知リハビリテーションプログラムの開発、その評価に用いられる認知機能障害の脳科学的研究（神経心理検査、精神生理学的研究、機能画像研究、統合失調症関連遺伝子に関する研究、神経ネットワークに関連する研究）、アドヒアランス向上につながる臨床薬理学的研究、がテーマとして挙げられる。認知リハビリテーションの開発については、Columbia 大学の Medalia 教授から適宜指導を受けながら、保健学科 最上 多美子教授と共同研究を行っている。

今後、プログラムが定着した後は、日米の比較研究を行う予定である。遺伝子研究については、国外においてはジョーンズホプキンス大学の精神医学、神経科学分野、ミシガン州立大学の精神医学と共同研究を行っており、交流を持っている。

4. 当科で取得可能な指定医、認定症、専門医

- (1) 精神保健指定医
- (2) 日本精神神経学会精神科専門医
- (3) 日本臨床精神神経薬理学会専門医
- (4) 日本総合病院精神医学会専門医

5. 当科での研修後に取得可能な各種認定医、専門医受験資格を記載した。

指定医、認定医、専門医	受験に必要な研修期間
精神保健指定医	5年以上の臨床経験、 3年以上の精神科実務経験
日本精神神経学会 精神科専門医	5年以上の臨床経験、定められた研修施設における3年以上の精神科臨床研修

日本臨床精神神経薬理学会 専門医	定められた研修施設にお ける3年以上の精神科臨床研修
日本総合病院精神医学会専 門医	総合病院精神科における5年 以上の精神科臨床研修

6. 診療分野ならびに特徴ある診療内容

当院での主な診療について

A. 診療分野

1) 精神科

統合失調症、気分障害、発達障害、不安障害、摂食障害、解離性障害、身体表現性障害、器質性精神障害、（高次脳機能障害を含む）、認知症、てんかん、アルコール・物質乱用、睡眠障害、パーソナリティ障害、適応障害

B. 特徴ある診療内容

1) 急性期から慢性期まで

(1) 急性期興奮患者に対する接し方、薬物療法

- ① 人権、倫理面への配慮
- ② 身体的副作用に配慮した薬物療法
- ③ 家族への病気の説明

(2) 回復期の薬物療法、心理社会的治療

- ① 薬物の減量、スイッチング
- ② 患者、家族への心理教育
- ③ リハビリテーションへの導入

(3) 社会資源の活用

2) リエゾン精神医学

(1) 身体合併症をもつ精神疾患

- ① 症状精神病（SLE、甲状腺疾患、糖尿病など）
- ② 高次脳機能障害のメンタルケア
- ③ 緩和ケア
- ④ 人工透析、インターフェロン、骨髄・臓器移植などに伴う精神症状

(2) 身体医学的に説明できない身体症状を前景とした精神疾患
精神症状（抑うつ症状）が目立たないうつ病（masked depression）、
身体化障害など、他科に積極的にアプローチ

(3) 救命救急医療との連携
自殺企図患者のフォローアップ

3) 地域医療との連携

(1) 病院から地域へ（community-based psychiatric care）

① 地域の医療機関、中間施設、保健所、福祉事務所など、多職種との連携を通じて、患者の社会復帰を支援

② 効果的なりハビリテーションプログラムの展開

(2) 発病予防、早期介入

学校・職場でのメンタルヘルス向上のために、行政、医師会、産業保健推進センターなどとの積極的な連携

7. 専門医研修施設

*日本精神神経学会では現在、専門医指導医および専門医研修施設の申請を受け付けており（鳥取大学医学部附属病院はすでに認定されている）、当科教育関連施設でも、順次認定施設が増えていく予定である。

(1) 鳥取大学医学部附属病院

(2) 精神科・心療内科教育関連病院

上記（1）、（2）において、精神医学全般にわたる研修ならびにそれぞれ希望する専門医研修を実施する。研修期間が3年を超えると、日本精神神経学会精神科専門医の資格を取得することが可能となる。

8. 精神科・心療内科教育関連病院（*専門医研修施設）

当院精神科・心療内科では、主に山陰両県全域に教育関連病院を有し、連携を取りながら地域医療を進めている。主だった教育関連病院を示す。

鳥取県	島根県	その他
○鳥取医療センター*	○安来第一病院*	○但馬病院（兵庫県）
○鳥取県立中央病院*	○松江赤十字病院*	○小泉病院（広島県）
○鳥取県精神保健福祉センター	○松江市立病院*	○宗近病院（広島県）
○渡辺病院*	○八雲病院	○昭和大学医学部附属病院（東京都）*
○幡病院	○松北病院	○東京都立松沢病院（東京都）*
○上田病院	○隠岐広域連合立隠岐病院	○国立精神・神経センター武蔵病院（東京都）*
○倉吉病院	○こなんホスピタル*	
○鳥取県立総合療育センター	○島根県立中央病院*	
○山陰労災病院	○島根県立湖陵病院	
○米子病院	○海星病院	
○養和病院	○石東病院*	
○南部町国民健康保険西伯病院	○済生会高砂病院	
	○浜田医療センター	
	○西川病院*	

指導責任者連絡先： 兼子 幸一

鳥取大学医学部統合内科医学講座精神行動医学分野

TEL 0859-38-6547、FAX 0859-38-6549